

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2017

課題番号：26300034

研究課題名(和文)メキシコ西部地域の埋葬文化から探る文明間の交流

研究課題名(英文)a study for interaction between civilizations exploring the burial tradition of Western Mexico

研究代表者

吉田 晃章 (Yoshida, Teruaki)

東海大学・文学部・講師

研究者番号：60580842

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,300,000円

研究成果の概要(和文)：中米と南米の文明間の交流について研究するにあたり、まず両文明に共通する文化要素として、紀元前300年から後600年に現れる特殊な形状の墓に関する調査をメキシコ西部地域で実施した。研究の結果、ブーツ型の墓の一部が遺構と関連していることに注目し、同地域で埋葬文化の伝統が地域間交流により、時代を追って西部地域から少なくとも東へ拡大することを確認し、拡大プロセスのモデル化に成功した。また、メキシコ西部ロス・アルトス地方の考古調査のパイオニアとしてロス・アガベス遺跡を発掘し、同地域で先例のない大型祭壇とピラミッドを発見した。調査資料は、地域間の交流が文明形成と発展の主要因の一つであることを示している。

研究成果の概要(英文)：In researching interaction between pre-hispanic civilizations of Central and South America, we conducted a survey on special shaped tombs as a cultural element common to both civilizations, which appeared from 300 BC to 600 AD in the western Mexico. As a result of study focusing on the fact that a part of the boot shape tomb is related to the remains of structure, we confirmed that the burial tradition in the area expands from the western region at least to east by regional interactions, following the era. And we succeeded in modeling the process of cultural transmission. In addition, as a pioneer of archaeological investigation in Los Altos region, Jalisco, Mexico, we excavated an archaeological site "Los Agaves" and discovered a pyramid and a large altar which have never been seen in this region. Our survey shows that the regional interaction is one of the main factors which had formed and developed the civilization in this area.

研究分野：新大陸先史学

キーワード：メキシコ西部 遺跡 地域間交流 埋葬 建築

1. 研究開始当初の背景

中米と南米の交流については、紀元前における栽培植物の伝播にまでさかのぼり、古くは20世前半より論じられてきた。農耕の始まる時代には、トウモロコシの中米から南米への伝播、ジャガイモの南米から中米への伝播、文明形成期には中間領域で始まる土器製作の伝播、さらに中米ではオルメカ文化、南米ではチャビン文化で共通してジャガー信仰が興る。鏡型土器と呼ばれる土器もメソアメリカとアンデスでこの形成期に出現してくる。さらに紀元前800年頃からはトゥンバ・デ・ティロ(tumba detiro)と呼ばれる約2~15mの深さの縦穴を持つ墓室の埋葬伝統が出現し、北米大陸ではメキシコ西部、中央アメリカではコスタリカ、南米ではペルー中央・北海岸、コロンビア、エクアドルと広く分布する。メキシコ西部での分布範囲は、コリマ州、ハリスコ州南部、チャパラ湖(Lago de Chapala)南西部・西部・北西部、そしてナジャリ州南部である。ミーガンとニコルソンは縦穴付墳墓が弓形に分布する地域を「トゥンバ・デ・ティロのアーチ(arco de las tumbas de tiro)」と名づけている^{注①}。墓の形状の類似や副葬品の類似から、この墳墓の形態がある一つの起源から太平洋の航路を通じて広まってきたことが考えられてきた。ディッセルホフはメキシコ西部とエクアドル、コロンビアとの関係を強調してきた^{注②}。キルヒホフも、メキシコのコリマ州と南アメリカの文化的類似を認めている^{注③}。またケリーは、鏡型土器の研究から紀元前1500年頃から南米との関係がみられると述べている^{注④}。フラストはコロンビアとメキシコ西部では、墓の形状だけではなく、副葬品の土器、土偶などすべてにおいて類似が見られるとし、さらに時期的に同時代であることを指摘している^{注⑤}。

以前は海洋交易の確かな証拠が得られないため、これらの説はこれまで見送られてきたが、現在では多くの学者が二地域の類似的關係を認めるに至っている。最近の研究では、アナワルトがメキシコ西部とコロンビアの考古学遺物を利用し、衣装や装身具に見られる類似性の研究を行なっている^{注⑥}。考古学遺物のほかに、生物(かけす、無毛犬)も両地域の關係を示すものが多いとされている。南米のスポンデュルス貝の需要が高まったことで、交易が発達したとアナワルトは考え、後800/900年、エクアドルですでに存在していた地方豪族で、交易を取り仕切っていた海洋商人が、スポンデュルス貝交易との關係により、メキシコ西部に南アンデスの冶金技術を伝えた可能性を示唆している。後600年から800年にメキシコ西部で冶金技術が発達するが、これもアンデス北海岸の影響とも言われ、南米と同様のデザインの青銅製品が作製される。また錫青銅(成分の1-2%以上錫を含有)は、エクアドル、コロンビア、中央アメリカではみられず、南アンデスでのみ、早くから発達していた。この錫青銅が、南米に広

まるのはインカ帝国の拡大によってであり、南米からメキシコ西部へ伝わったとホスラーは考察している^{注⑦}。このようにメキシコ西部一帯は、まさに南米アンデス地域との交流の拠点となっていたと考えられる。だが、メキシコ西部と南米大陸北西部は5000-6000kmも隔たっており、遠洋航海を今から2000年以上も前に想定することはかなり難しいであろう。海岸沿いには文化的交流、つまり沿岸航海によって比較的近距离で停泊を繰り返しながら行なわれるような地域的交流があり、次第に埋葬習慣や習俗、文化的要素が伝わったと仮定することは難しくないのである。しかしながら、その交流のプロセスは、解明されないままとなっている。そこで、本研究はメキシコの墳墓文化に焦点を当てて、両地域の交流を実証的に研究していくものである。旧大陸の文明とは隔離された状態で、新大陸で独自に文明形成が行われてきたことは、共通の認識としてあるが、中米メソアメリカ文明と南米中央アンデス文明がそれぞれ独自に文明を発展させたかどうかについては、いまだ解明を見ていないのである。

2. 研究の目的

研究代表者は、これまで中米の先史文化、特にメキシコ西部地域とアステカの死生観に関する研究を行ってきた。あわせて、平成12年からは松本亮三が代表を務める調査団で南米ペルーにおける考古学調査に携わり、埋葬遺構の発掘に従事し文化変容について考察を行ってきた。研究に通底する問題意識は、征服以前の大陸における文明の形成において交流がどのような役割を果たしたかということにあり、本研究の最終的な目的は、「新大陸文明(中米・南米)間の交流」を問うことにある。しかし、まずその端緒として、メソアメリカ文明西部地域とアンデス文明において共通に現れる縦穴付き水平墓室を伴う埋葬遺構の考古学調査をメキシコ西部において実施し、メソアメリカにおける先古典期中期から古典期前期(前1000年頃~後600年頃)にかけて当該地域で興った地域交流および文明間交流を明らかにする。そして、メソアメリカ西部でどのような文化交流があったのかを実証的に調査することで、埋葬伝統の拡大プロセスの解明し、地域間交流と文明間交流のモデル化を目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、平成26年度より3ヵ年間計画で実施する予定であったが、途中カウンターパートが替り、計画が変更され4年となったことを最初に記しておく。

26年度はハリスコ州南部地域において広く遺跡分布に関する調査を行い、各遺跡の表面調査の結果を考慮し、発掘を行う縦穴付墓室の墳墓を伴う小遺跡を選定する。このため広域踏査を行い、グアダラハラからコリマに抜ける自然のルート上に位置するサユラ盆

地で発掘対象遺跡を踏査により選定する。

27年度はメキシコ西部の中心都市グアダハラ近郊に位置するテウチトラン伝統の遺跡を踏査し、建造物の床面もしくは基礎床面と縦穴によって墓室と地上が結び付いている堅坑墓の分布について実地踏査した。カウンターパートの所属機関と協定を結びサユラ盆地で発掘調査を行う予定であったが、残念ながら期間内に協定を結ぶことが困難となり、年度末でカウンターパートを変更せざるを得なかった。

28年度は発掘調査のため、現地メキシコのミチョアカン大学と代表者が所属している東海大学文学部の間で学術協定を結び(2016年9月)ハリスコ州東部のロス・アルトス地方で、再度踏査を開始した。同地方は縦穴付き水平墓室を伴う堅坑墓の東端に位置しており、いかにして堅坑墓が域内で拡大するかを検証するには適当な地であった。

29年度には、雨季前の5月と2018年2月から3月にかけて発掘調査を行い、建築様式と堅坑墓の関係をもとに西部地域の地域間交流について、その拡大プロセスを把握することとした。

4. 研究成果

平成26年度はサユラ盆地の踏査を行い新たな遺跡を4件登録した(拙稿2014参照)。

さらに、また踏査と文献研究により、堅坑墓が社会発展とともに権力者に利用され、遺跡の建造物と関連してつくられることに注目し、長い堅坑墓を持つ墓が世界の中心を象徴する世界軸と関連するという新たな解釈を提示することができた(拙稿2017参照)。まず踏査と文献調査により堅坑墓の分布や形状についてかなりの多様性があることが確認された。さらに、個人墓や集合墓など異なる利用方法も存在した。集合墓の場合は親族集団による再利用が行われていた。これらの状況に対して、50年代60年代までの限られた資料から「堅坑墓は女性の生殖器官を象徴する」とフェンテらが示した解釈が、現在も一般的に受け入れられていた^{注⑧}。しかしながら、形態的にも多様な堅坑墓は、女性の生殖器官を象徴するという解釈だけでは不十分であることは明白であった。地域や時代によって異なる社会状況を考慮して、再解釈がなされるべきであり、研究代表者は、同心円状に配された建造物群(テウチトラン伝統)と意図して関連づけられた、比較的長い堅坑を持つ墓に焦点を絞って、堅坑墓に与えられた新たな象徴性あるいは死生観を解明しようと試みた。なぜなら、テウチトラン伝統と呼ばれる建造物群は、1990年代以降に本格的に発掘が進んだ遺構だからである。テウチトラン伝統の遺跡では、黒曜石や塩など価値の高いものを支配し、独占的に交易をおこない、さらに集約的農耕によって統合度の高い社会が営まれており、社会の階層化も進んでいた。社会の中心に位置する同心円状の基壇群

では、中央の円形基壇に柱が建てられ世界軸と関連する儀礼が行われていた。

現代の民俗資料およびアステカの文書と創世神話を参考に、柱の象徴性を紐解くと、柱は世界樹と関連し、世界の創造や世界の中心と関連するものであることがみえてきた。さらに、儀礼では祖先が表現されており、創世神話が織りなされる儀礼であることが推し量られた。地域は異なるが、同じ先スペイン期のメキシコ西部にこれらの世界樹あるいは世界軸の観念があったと結論付けることは、極めて蓋然性が高い。柱の儀礼と関連する建造物群の中に作られた堅坑墓に限って言えば、世界を生み出す世界樹や創世神話が象徴的に示される空間として作られたのだろう。テウチトラン伝統の場合、堅坑墓は地上界と地下界、言い換えれば生きる者の世界と死者の世界をつなぐ軸としての役割を与えられたのだろう。

堅坑墓と地上の建造物群は偶然関連付けられたわけではなく、社会のリーダーが世界樹または世界軸の観念を意識して使用し、世界観の支配を具体的に遺跡に表現したものである。言い換えれば、堅坑墓を含む大地に対し、生命を育む女性のイメージをあてて豊穡と関連する価値観を重視していた世界観から、世界の中心と関連する世界軸を意識した世界観へ変化したことを、社会の権力者は遺跡に投影し始めたといえよう。

ついで地域間交流の実態を、堅坑墓と、墓と関連する同心円状プランの遺跡の拡大プロセスを調査することで、メキシコ西部における埋葬伝統を含めた伝統の伝播がしめす方向性を解明しようと試みた。そのため、テウチトラン伝統の影響がみられる東端地域を対象とし、遺跡調査を実施した。2017年2月から3月にかけて行われたメキシコ西部ハリスコ州、ロス・アルトス地方における踏査と5月に行われたロス・アガベス遺跡の発掘調査からつぎのことが解明された。同遺跡は、中心部分が6haほどの小規模遺跡ではあるが、近傍には刻点十字紋を含む多数の岩絵が存在しており、この遺跡の祭祀センターとしての重要性が窺えた。これまでの踏査と測量により、ピラミッド状基壇など複数の基壇によって構成される中央広場の中心には、わずかな隆起が確認されている(図1)。このため5月の試掘では、広場中央における祭壇の有無と残存状況の確認、遺跡の年代同定を目的とした。

試掘調査の結果、広場の中央からは祭壇の壁とそれに付随する土製の階段部を確認した。階段部直上からは炭化物や土器片が出土し、現在年代測定を依頼している。広場の角にあたる試掘坑では、残念ながら広場の端を捉えることはできず、予想以上に中央ピラミッドの瓦礫が広場に堆積していることが窺えた。一方想定された通り、広場内部は総じて出土遺物が少なかった。

ロス・アガベス遺跡やルス湖周辺で実施し

た踏査からは、新たな刻点十字紋を含む、多数の岩絵が確認された。岩を擦り鉢上に加工した半球形の窪みも多数確認され、中には約20個もの窪みのある岩も確認された。また、ルス湖周辺の川沿いに分布する多数の岩絵の中で特に重要な刻点十字紋は、中央高原のテオティワカンとの関連を示しており、テオティワカンからロス・アルトス地方を經由し、さらに北のサカテカス州のアルタビスタ遺跡を結ぶルートを確認されている。発見された刻点十字紋はその数の多さからも、同地域が何らかの重要性をもち、多くの岩絵が作成されていることは想像に難くない。

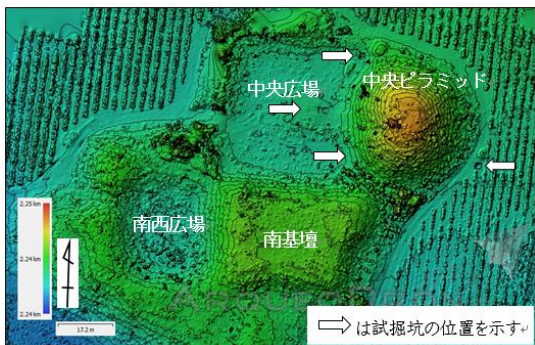


図1 ドローンによる遺跡の簡易測量図

ベル^{注⑩}の調査から、堅坑墓はロス・アルトス地方北部で確認されている。このことから考えると、ロス・アガベス遺跡周辺にも堅坑墓が分布している可能性は高いと思われる。近傍の遺跡からも円形の建造物も確認されており、ロス・アガベス遺跡も堅坑墓の時代、少なからず、テウチトラン伝統の影響を受けていたことは、間違いない。しかしながら、ロス・アガベス遺跡には、建造物として円形構造物は確認されていない。



写真1 大型の方形祭壇

ロス・アガベス遺跡は、測量調査によるデータから方形の広場と、それを取り囲む方形基壇で構成されていることが確認できた。さらに中央広場からは、2018年3月の発掘によって中央に方形の祭壇が確認された(写真1)。祭壇は、同地域では先例がない一辺8mを超す大規模なものであり、その大きさは円形プランの中央に配された中央祭壇を想起させる。この方形レイアウトはバヒオ伝統と呼ばれる様式である。この例は、ペラルタ遺跡の第2複合の二重神殿(ダブル・テンプル)に見られる。この広場はまさに方形の祭壇を

広場中央に有しており、ほぼロス・アガベス遺跡とその形態が一致する。この建築複合の炭素年代測定の結果は、紀元後610年^{注⑩}を示しており、7世紀初頭から利用されている。このためロス・アガベス遺跡の建築プランも7世紀前半から機能していたことがうかがえる。

一方、ロス・アガベス遺跡の中央ピラミッド(写真2)の東側の試掘坑から得られた特殊なエンガルゴラード型と呼ばれる特殊な口縁をもつ土器片は、サユラ盆地の土器と比較すると550年から1100年という年代が当てられた。このため、建築プランからは7世紀初頭と推測されるが、土器からは6世紀中ごろまで遡る可能性が考えられる。いずれにせよ、古典期後期に入るときには、遺跡は建設され機能していたであろう。

最後にロス・アガベス遺跡の置かれた文化的位置づけを確認しておきたい(図2)。いわゆるテウチトラン伝統とバヒオ伝統の交錯する地域に位置していることがうかがえる。また、刻点十字紋からは古典期前期テオティワカンの反映する時期に中央高原との関係がうかがえる。また刻点十字紋が分布するルートとの関係から交易網の上に立地していたことも想定できる。この点からは、ロス・アガベス遺跡の位置するロス・アルトス地方はバヒオ伝統の中心地であるグアナファト州、さらに東の中央高原とのつながりも示す重要な位置にあり、北部の伝統や東部のテオティワカンの影響がみられる地域と考えてよい。この地域に位置するロス・アガベス遺跡の発掘は、地域間交流の解釈に有用な一次資料を提供してくれると期待できよう。

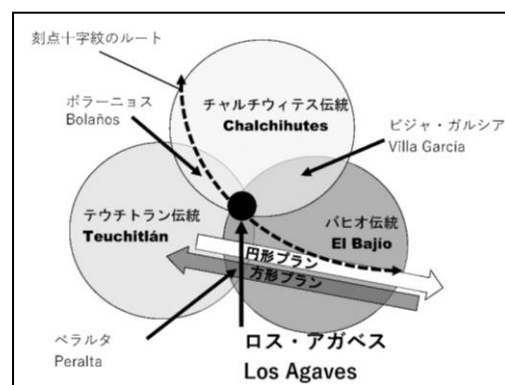


図2 地域間交流の概念図(Cárdenas, 1999, Lámina 1 改編)

学術的な発掘調査がほとんどなされていないハリスコ州ロス・アルトス地方で発掘調査を実施できたことは、学術的に価値が高い。これまで解明されてこなかった、東部と西部、また西部と北部の関係を実証的に解明する手掛かりが得られることにつながり、従来の解釈を再検討する貴重なデータが得られた。

ロス・アルトス地方で紀元前後までは、それほど統合度が高くない狩猟採取民による社会が営まれていたが、徐々にテウチトラン伝統の社会の影響を受け、堅坑墓なども造ら

れるようになった。堅坑墓は一般的に地位の高い人物が埋葬されるため、社会の階層化が徐々に進展していったことを窺わせる。これは近郊の遺跡の建築プランからもテウチトラン伝統の影響がこの地域に及んでいたこと明らかである。つまり埋葬文化はテウチトラン伝統と関連し、紀元後 600 年頃には、かなりの確率で西からロス・アガベス遺跡の位置する東へと拡大してきたことが分かった。

上述のようにロス・アルトス地方におけるロス・アガベス遺跡の発掘調査を通じ、建築プランと埋葬文化の拡大に焦点を当てて研究してきた。西部中央や中央高原などの文化と関わって、相互に影響を与えながら該当社会が発展した様子を、ロス・アガベス遺跡の発掘を通じ明らかにしたが、

2017 年度が初年度で調査は端緒に着いたばかりであり、今後も継続して発掘を行う予定である。ひいては西部の地域間交流から大陸間の文明交流の様相を究明していきたいと考えている。



写真2 中央ピラミッド出土

【注】① Meighan and Nicholson, “The ceramic mortuary offerings of prehistoric West Mexico: an archaeological perspective”, in *Sculpture in Ancient West Mexico: Nayarit, Jalisco, Colima*, p.13, 1970.

② Disselhoff, “Note sur le résultat de quelques fouilles archéologiques faites a Colima”, en *Revista del Instituto de Etnología de la Universidad Nacional de Tucumán*, no.2, pp. 525-537, 1932.

③ Kirchhoff, “México y su influencia en el continente”, en *El México prehispánico*, 1946.

④ Kelly, “Vasijas de Colima con boca de estribo”, *Boletín del INAH*, núm 42, pp.26-31, 1972.

⑤ Frust, Huichol Concept of the Soul. *Folklore Americas* 26, no.2, pp.39-100, University of California, 1967.

⑥ Anawalt, “They come to trade exquisite things an ancient West Mexican - Ecuadorian contact, in *Ancient West Mexico: an known past*, ed. Richard F. Townsend, pp.233-249, The Art of Institute of Chicago, 1998.

⑦ Dorothy Hosler, “Ancient West Mexican Metallurgy: South and Central American Origins and West Mexican Transformations”, in *American*

Anthropologist, v.90, n.4, pp. 832-855, 1988.

⑧ Beatriz de la Fuente, *Arte Prehispánico Funerario*, El Colegio Nacional, México, 1994 (1974).

⑨ Betty Bell, “Excavations at El Cerro Encantado, Jalisco”, in *The archaeology of West Mexico*, edited by Betty Bell, pp.147-167, Sociedad de Estudios Avansados del Occidente de México, A.C., 1974.

⑩ Efraín Cárdenas, *Peralta y la tradición Bajío, arqueología, arquitectura y análisis especiales*, El Colegio de Michoacán, 2015.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

① 吉田晃章 「メキシコ西部ロス・アガベス遺跡の建築プランと盛衰 —簡易測量と発掘調査からの考察—」、『文明研究』36 号、pp.29-59、東海大学文明学会、2018 年 03 月。

② 吉田晃章 「メキシコ西部における埋葬と世界軸—堅坑墓の象徴性に関する一考察—」、『文明研究』35 号、pp.47-72、東海大学文明学会、2017 年 03 月。

③ 吉田晃章 「文明間の交流から再考する新大陸」(From the Field—研究の現場から)、「比較文明学会会報」62 号、p.10、比較文明学会、2015 年 01 月。※論考

④ 吉田晃章 「メキシコ西部サコラ盆地およびサコアルコ盆地における踏査概報 (2014 年度)」、『古代アメリカ』17 号、pp. 73-88、古代アメリカ学会、2014 年 12 月。※カテゴリーは調査速報

[学会発表] (計 12 件)

① Teruaki Yoshida, “Proceso de excavacion en Cerritos de Los Agaves, Jesus Maria, Jalisco”, La primera reunion de especialista en Arqueologia de los Altos de Jalisco en el Festival Cultural de Marzo 2018, La Universidad de Guadalajara, el Centro Universitario de los Lagos, el Colegio de Michoacan, A.C. y el H. Ayuntamiento de Lagos de Moreno, Jalisco, 2018.3.16, en el Centro Universitario de los Lagos.

② 吉田晃章・松本建速・立石謙次、「岩絵群と神殿建築から究明する先スペイン期メキシコ西部の社会文化発展」、2017 年度東海大学総合研究機構 プロジェクト研究成果発表会、東海大学総合研究機構、2018 年 3 月 7 日、於) 東海大学。

③吉田晃章、ロドリゴ・エスパルサ、フランシスコ・ロドリゲス、マリオ・レティス、「メキシコ西部、ロス・アガベス遺跡における試掘調査ならびに踏査概報」、古代アメリカ学会第22回研究大会、古代アメリカ学会、2017年12月3日、於）茨城大学。

④吉田晃章、「メソアメリカの文化伝統からみるロス・アガベス遺跡の立地」、東海大学文明学会2017年度一般研究発表会、東海大学文明学会、2017年11月、於）東海大学。

⑤Francisco Rodriguez, Rodrigo Ezparza, Teruaki Yoshida, “Registro de petrograbados en el sitio Presa la Luz, municipio de Jesus Maria, Jalisco: Implicaciones de acuerdo al contexto ambiental”, 2do Encuentro INCUA 2017: Historia Ambiental y Adaptacion Humana, Contextos Historicos y Arqueologicos. Universidad Autonoma de San Luis Potosi, Facultad de Ciencias Sociales y Humanidades, 2017.10.

⑥Rodrigo Ezparza, Francisco Rodriguez, Teruaki Yoshida, Mario Retiz, “Resultados preliminares de la IV temporada de investigaciones rupestres en el sitio Presa de la Luz, municipio de Jesus Maria, Jalisco”, XVIII Coloquio Guatemalteco de Arte Rupestre, Universidad de San Carlos de Guatemala, Cerrera de Arqueologia Grupo Guatemalteco de Investigacion de Arte Rupestre, 2017.9.

⑦Francisco Rodriguez, Rodrigo Ezparza, Teruaki Yoshida, “Uniendo esfuerzos en pro del patrimonio cultural: la multidisciplinaria en el sitio Presa de la luz, Jesus Maria, Jalisco”, Cuarto Ciclo de la Semana de la Arqueologia EAHNM 2017, Escuela de Antropologia e Historia del Norte de Mexico, 2017.9.

⑧Rodrigo Ezparza, Teruaki Yoshida, Francisco Rodriguez, Mario Retiz Luis Carlos Luna, Zamara Navarra, “Coferencia: El Santuario Rupestre de los Altos. Avances en la excavacion de la Zona Arqueologica Preza de la Luz”, Festival Cultural Mayo 2017 Jesus Maria, Municipio de Jesus Maria, 2017.5.

⑨吉田晃章、ロドリゴ・エスパルサ、フランシスコ・ロドリゲス、「メキシコ西部ハリスコ州ロス・アルトス地方における踏査概報」、古代アメリカ学会第21回研究大会、古代アメリカ学会、2016年12月。

⑩吉田晃章、「メキシコ西部における埋葬と

世界軸」、2016年度東海大学文明学会一般研究発表会、東海大学文明学会、2016年11月、於）東海大学。

⑪吉田晃章、「先スペイン期メキシコ西部からみる地域間交流と文明の盛衰—中米文明交流圏に関する一考察—」、第34回比較文明学会大会、比較文明学会、2016年11月、於）同志社女子大学。

⑫吉田晃章、「メキシコ西部、サユラ、サコアルコ盆地における踏査概報」、古代アメリカ学会第19回研究大会、古代アメリカ学会、2014年12月。

〔図書〕(計1件)

①Rodrigo Esparza y Francisco Rodriguez,, *El Santuario Rupestre de Los Altos de Jalisco*, Pandora, 2016. 研究代表者(Teruaki Yoshida)はPrefacio(前書き): “Primera visita al sitio arqueologico Presa de la Luz en la Region de Los Altos”, pp.I-IVを執筆。

〔その他〕

ホームページ等

調査地へスス・マリア村FBに掲載。

<https://www.facebook.com/cmsocialjm/photos/a.1151078218253847.1073741829.1148810181813984/1666831680011829/?type=3&theater> (調査開始式の写真)

<https://www.facebook.com/cmsocialjm/photos/a.1151078218253847.1073741829.1148810181813984/1666734326688231/?type=3&theater> (調査風景を使用した行事用写真)

調査関連新聞記事

①記事名: En Arandas realizan descubrimiento arqueológico único en el mundo, 新聞名 Notiarandas, 2018年3月21日。

②記事名: Se pretende conocer quienes fueron los primeros altenses en la zona arqueologica y su temporalidad, 新聞名: Puntos suspensivos, 2018年2月10日。

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉田晃章 (Yoshida, Teruaki)

東海大学・文学部・講師

研究者番号: 60580842

(2)研究協力者

Esparza, Rodrigo

ミチョアカン大学・考古学研究所・教授

Retiz, Mario

ミチョアカン大学・考古学研究所・助手

Rodriguez, Francisco

プレサ・デ・ラ・ルス考古学調査団・団員